

風を通そう!



福岡県議会議員
〔飯塚市・嘉穂郡(桂川町)選挙区〕

ようこそらとこお

県立嘉穂総合高校への アクセス道路整備が遂に働き出します。

高校再編計画により、県立山田高校、同嘉穂工業高校、同中央高校が統合されスタートした県立嘉穂総合高校は平成20年4月に飯塚市鶴三緒地区から桂川町土師地区に移転・開校しました。同校の広大な敷地は高台にあり眺望も絶好で抜群の教育環境にあります。しかし同校へのアクセス道路は旧上山田線から約1kmの立派な道路を除き、後の道路は狭隘で、特に国道200号方面からの通学は大変不便な状況が続いています。そこで嘉穂総合高校の現在地への移転が決定した後の平成18年頃より、同校から桂川町役場横の交差点までの約700mの直線道路を新設することを福岡県に働きかけて来ました。特に同校が移転開校して以降は同窓会、PTAの要望活動もあり桂川町を含め県に対する要望活動が展開されて来ましたが、予算の問題もあり膠着状態が続いていました。それが今年度予算により、地形測量と予備設計が実施されることになり、念願のアクセス道路整備が動き出すことになりました。以後、順調に行けば年明け頃に地元説明会。平成26年度に路線測量、地質調査、詳細設計、平成27年度以降、3年前後の用地買収を経て着工という手続きとなります。竣工時期は用地買収にどの程度の期間を要するかによって変わりますが全体で9億円前後の予算が必要と見込まれています。

この道路の整備が完了すれば、生徒の安全な通学路の確保と嘉穂総合高校の立地環境を飛躍的に向上させるだけでなく、桂川町の東部地域や嘉麻市からの国道200号やJR桂川駅等へのアクセス性が大幅に向上することになり、広域的な地域振興が期待されます。1日も早く整備が完了するよう今後も全力で取り組みます。



吉村敏男

渋滞解消のため国道200号と八木山バイパス交差点及び併分交差点の改良工事が実施されます。

現在、朝夕のみならず、昼間も慢性的渋滞が発生している国道200号と八木山バイパス交差点と併分交差点の改良が別図のとおり実施されることになりました。現在の冷水方面行、片側2車線(一部3車線)が4車線になります。今年度中の着工と来年度末の完了を目標としています。その先の冷水方面についても同様の改良が実現するよう、引き続き働きかけを続けます。

旧200号線への大型車の進入規制について

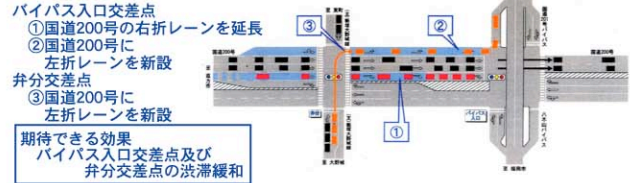
鳥尾トンネルの完成や、二車線化により、大幅に増加した国道201号バイパスの通過車両のうち、特に田川方面と冷水方面を往来する多くの大型トラックが、旧国道200号線の飯塚市堀池から桂川町瀬戸の間をバイパスとして利用するため、近隣住民の方は長年に亘り、その震動と騒音に悩まされていました。この問題について住民の方からの相談を受け、数年前から警察に対して「大型車の全面通行止め」を働きかけていましたが、大型車の平恒工場団地への出入りもあり、なかなか実現しませんでした。今般、瀬戸、天道、栗市、松ヶ瀬の4自治会長が9月17日に飯塚警察署に対し同区間での夜

国道200号バイパス入口交差点及び併分交差点

【現状(八木山バイパス無料時)の課題】



【交差点改良の実施内容と期待できる効果】



間(午後9:00~午前9:00)の大型車通行止めの陳情が出された際、私も要請を受け、県警に対し同様の要請を行うと同時に9月27日の県議会警察委員会で質問し、早期の実現を求めました。その結果、具体的な実施日までは踏み込みませんでした。住民の悩み除去のため、早急に対応し、年末頃までには規制を実施するのではないかと感触を得ることができました。

9月定例県議会終了

9月12日から10月3日までの日程で開会された9月定例県議会は、135億1千万円を追加する本年度一般会計補正予算など19議案を原案どおり可決し閉会しました。

- ILC立地評価会議の候補地決定について
- 日本学術会議の見解に対する所見と、今後の本県の誘致活動について
- 福岡空港と北九州空港の運営形態について
- 福岡空港の収支状況について
- 北九州空港の収支状況について
- 福岡空港の平行誘導路、ターミナルビル、駐車場の建設費及び負担について
- 福岡空港を民間委託した場合の滑走路増設に係る地元負担金について
- 福岡空港と北九州空港の民間委託について
- 筑紫野市の旧村川組最終処分場について
- あんしん住替え情報バンクについて
- 住まいの健康診断について
- リノベーション推進事業補助金について
- 木造戸建住宅への耐震化補助金制度について
- 住宅リフォーム助成制度の創設について
- ILO第100号条約及び第111号条約について
- 非正規労働者の現状認識と改善に向けた取組みについて
- 正規・非正規間の労働条件格差の現状と、改正労働契約法の遵守と周知について
- 最低賃金800円の実現に向けた取組みについて
- 男女がともに能力を発揮し、仕事と家庭を両立できる社会の実現について
- 英語授業におけるプロジェクター活用状況等の調査結果について
- 英語専用教室の必要性の調査結果及び今後の対応について
- 県立高校から出された英語授業実施における要望について

民主党県政クラブの主な代表質問の項目は以下のとおりです。詳しくは県議会のHP(<http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/>)をご覧ください。

Q 飯塚市の産業廃棄物最終処分場に係る措置命令の履行状況と指導について

A 業者からは、「措置命令を履行します」と記載された文書が提出されているが、措置命令の着手期限を過ぎても着手されていないことは極めて遺憾である。

A 措置命令の対象者に対し、具体的内容を記載した措置計画書を提出し、すみやかに措置に着手するよう、繰り返しねばり強く催告を行っている。

Q 制裁措置について

A 措置命令を履行しない場合は、廃棄物処理法による罰則の対象となる。

A 措置命令の履行状況を見極め判断して参りたい。

Q 行政代執行について

A 現在、処分場の周辺においては、生活環境保全上の支障は生じていない。

A 県が命じた支障が生ずるおそれの除去は、措置命令の対象者が行うべきものである。

A 現在、すみやかに措置に着手するよう、繰り返しねばり強く催告を行っており、行政代執行については、言及する段階ではない。

九州国際重粒子線がん治療センターが鳥栖市に開院しました。

平成25年5月、九州新幹線新鳥栖駅前に国内では4カ所目、そして民間主導としては初となる重粒子線がん治療施設「九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)」が開院されました。同センターは、佐賀県が中心となって進めた取り組みを九州の経済界や医師会、大学の産学が連携し、協力することにより実現した九州唯一の重粒子線がん治療施設です。開設に必要となる150億円の事業費についても、民間からの寄付金や出資金に加え、佐賀県や福岡県(5億9千万円)からの補助金が出されるなど、県域をまたいだ支援が行われています。

6月下旬で登録患者83名。その内訳は、福岡県53名、佐賀県9名、熊本県8名、長崎県4名、宮崎県2名、大分県・鹿児島県各1名(他にも広島県、山口県の方がおられるとのこと)となっており、6月1日に開院してひと月余りにも関わらず、九州各県から多くの患者に利用されています。県議会としては、「他県の施設に多額の拠出」を行ったこともあり、我が会派が提案し、6月24日サガハイマツトを視察しました。



【重粒子線がん治療について】

がんの治療法には、手術でがんを取り除く外科療法、抗がん剤などを使用する化学療法、放射線ががんを叩く放射線療法などがあります。

重粒子線がん治療は、放射線療法のひとつで、光の速さの約70%に加速した炭素イオンを、がん病巣に狙いを絞って照射する最先端の治療法です。副作用が少なく、体を切らずに済むため通院で治療できるのが特徴です。また、エックス線等と比べてがん細胞の殺傷能力が2~3倍ほど高く、一回の照射で得られる効果が大きい治療期間も短くて済み、骨肉腫など従来の放射線治療が効きにくいがんや、複雑な場所にあるため手術が困難ながんにも治療の可能性が広がるなどの利点から大きく期待される治療法です。

【『サガハイマツト』を受診するには】

『サガハイマツト』を受診するには、いきなり外科を訪れても診察も診断もしてもらえません。

まず、最寄りのがん診療施設を受診します。そこで、がんの診断、進行度の判定、重粒子線診療適応の判断を行います。あるいは、大学病院の放射線科(重粒子線診療外来)を受診し、その上で、重粒子線診療(私費)希望の確認をします。そして、『サガハイマツト』へ紹介され、受診します。

『サガハイマツト』では、まず外来で、重粒子線診療の適応確認し、治療計画を策定し、そして、具体的に治療を開始します。

治療の後は、『サガハイマツト』とともに紹介元で経過観察、追加治療となります。

【患者さんに合わせた治療計画】

治療にあたっては、まず患者に必要な検査の確認や、治療、副作用等の説明が行われます。

その後、治療の際に体を固定する固定具の製作や、CT撮影を行い、がんの位置を測定して、治療計画を立て、治療のリハーサルを行います。治療は1日1回、照射時間は1~2分程度、照射の位置決めなど準備の時間を合わせても30分程度とのことです。

【診療費】

重粒子線治療は、厚生労働大臣の承認を受けた先進医療の一つです。先進医療の費用は、患者の全額自己負担となります。ただし、通常の治療と共通する部分(診察・検査・投薬等)の費用については、公的医療保険が適用されます。

重粒子線がん治療費 3百数十万円	(先進医療=全額自己負担)
診療・検査・薬代など	(公的医療保険適用)

なお、現在では民間保険会社から、先進医療の費用を保障する保険商品(「がん保険」や「医療保険」等)が多数販売されています。



サガハイマツト正面

潤野調整池のグランドゴルフ場に陽よけの藤棚設置

洪水防止を目的に整備された姿川の潤野調整池には地元の要望によりグランドゴルフ場として使用するため芝が植えられ、平成24年5月からグランドゴルフが行われています。しかし、夏場の7月8月には現地に日陰がまったくないことからプレーが休止されていました。こうした状況を改善するため、今年4月、再び地元からの要望により、図のような藤棚(テーブル4基、ベンチ10基)

が整備されることになりました。今年11月に着工し、年内には完成予定です。



耐震改修補助制度を県下全自治体で実現し、 地域振興の起爆剤にしましょう。

耐震改修補助制度は、国土交通省が木造住宅を含めた住宅の耐震化率を、2015年までに90%、2020年までに95%に高めるとして進めている制度です。このため、住宅に対する耐震改修を補助する制度が、全国のすべての市町村のうち、今年8月現在、1,339市町村、全体の77%で実施されています。佐賀県・大分県・宮崎県など23府県においては、全ての市町村で実施されています。福岡県では、2011年9月より「木造住宅耐震改修促進事業」として実施されており、1戸あたり、市町村が補助する額の2分の1の範囲で、最大30万円、県が補助しています。しかし、この事業を活用している市町村は、県内60市町村のうち、福岡市・北九州市・久留米市・福津市・宗像市・大野城市・うきは市・みやま市・那珂川町・志免町・遠賀町のわずか11市町、18.3%にとどまっています。そこで、わが会派は9月県議会

の代表質問でこの問題を取りあげ、知事から「耐震化補助金制度の実施には、まず各自治体で耐震化促進計画の策定が必要。8月末現在で37市町が策定しており、今年度末にはほぼすべての市町村の策定が見込まれている。」との答弁を得ました。しかし、ポイントは、いくら自治体が計画を策定してもそれに基づき「耐震化補助金制度」を導入しない限り、この制度は機能しません。住宅産業は自動車産業には及ばないにせよ、大変裾野が広い産業であり、この改修は事業規模が100万～500万位と住宅の新築より低額なことから、地場の工務店等の仕事を増やし、このことにより地域振興の起爆剤となることが期待されます。県下すべての自治体で、この補助制度が早急の実現されるよう今後も全力で取り組みます。

PHOTO 吉村敏男 GRAFFITI



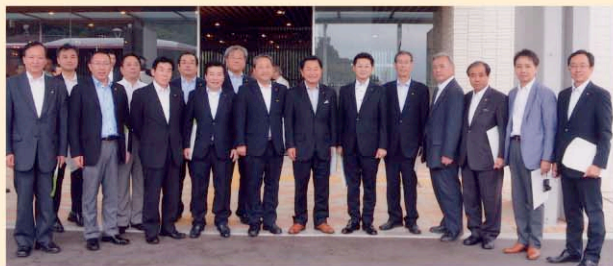
△九州の自立を考える会 第4回セミナー(5月20日・ホテル日航)



△バンコク都の高校生来訪(5月24日・県議会)



△県立筑豊緑地テニスコート新設式典(5月11日)



△サガハイマツト視察(6月24日)



△ダイハツク留米工場視察(9月2日)

吉村敏男 事務所

〒820-0082 飯塚市若菜52-1
Tel.0948(23)1210 Fax.0948(25)6071

お願い

個人情報保護法が施行され、個人情報の管理が厳しく制限されるようになりました。その結果、事務所として冠婚葬祭における祝電、弔電などが把握できず、大変失礼をいたしております。友人、知人、親族等の冠婚葬祭等がございましたら、ぜひ、御一報くださいますようお願いいたします。